

# 配送業務 スマホで管理

## 作業手順も配信／音声で営業報告

## テックファーム

システム開発のテックファーム（東京・新宿）は、卸業者や物流業者などのルート配送の業務をスマートフォン（スマホ）を使って管理するシステムを開発した。配送ルートを指定すると、トラックの運転手のスマホに通知される。配送先ごとの作業マニュアルも送付され、営業報告を声で入力することもできる。ドライバーの負担を減らし、物流業者の人材の定着につなげる。

## 運転手の負担軽減

ルート配送はあらかじめ決められた荷物を決められた道順で運ぶ配送方式。テックファームが開発したシステムは、企業の管理部門が、運転手の配送スケジュールの一覧表をつくる。各運転手のスマホにその日の予定が個別に配信される。追加配送などの対応が

必要な場合には、スケジュール表にその予定を加えれば、リアルタイムで運転手に通知される。現場のドライバーと電話で指示を出したり確認したりする場合に比べて、情報伝達の精度が高まる。

ルート配送では配送先の店舗や企業によって作業内容が異なることがあ

るので、配送先ごとに作業マニュアルをスマホで配信する。「冷蔵庫に直接納品」「受領書を受け取る」など項目を並べたチェックリストを設けて、作業漏れがないようにする。

配送先での作業が終わり、次の目的に出発する前に短時間で業務報告が作れるように、音声入力機能を設ける。配送先からの要望や指摘などをスマホに音声でふき込むと、自動的に文字データに変換されて本部に送られる。管理本部の社員は18年度中に10社前後の導入を見込む。今後は導

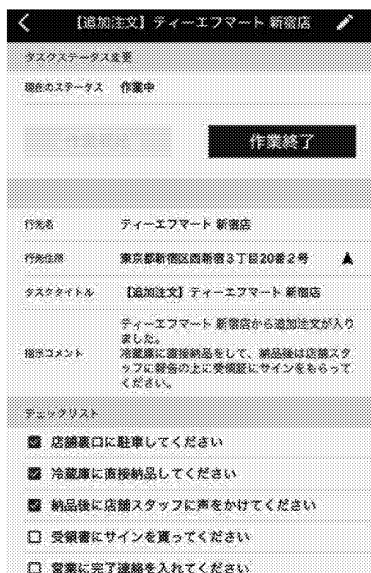
入各社のトラックの稼働状況を把握して、空きトラックを融通し合うなど、サービスの検討する。

運転手でも利用しやすくなる。運転手が事務所に戻ってから報告書を作成する負担を減らせる。

システムの導入費用は20万円から、年間使用料は68万円から。11月に「見える化」で人為的なミスを防ぎ、再配送などの業務を減らしたい考え

率は8月に2・98倍と、人材不足が続く。テックファームは配送業務の「見える化」で人為的なミスを防ぎ、再配送などの業務を減らしたい考え

（広井洋一郎）



作業内容を確認できる（写真上）。ドライバーごとに配送先やマニュアルが送られる